

人材システム改革構想・概要

- 提案構想名 「新領域を開拓する独創的人材の飛躍システム」
○総括責任者名 「総長 尾池 和夫」
○提案機関名 「国立大学法人 京都大学」

機関の現状

研究ポテンシャルの現状：京都大学は、創立以来の自由の学風を継承し地球社会の調和ある共存に貢献するため、世界的にも優れた知の創造を行っている。その結果として、ノーベル賞、文化勲章をはじめとする数々の国際賞の受賞や、多くの研究分野で世界をリードする中核機関となるなど、卓越した大学として極めて高い評価を得ている。

若手研究者の育成に関する取組の実績：23の学術分野からなるCOE拠点で若手研究者の育成に努めるとともに、「若手研究者スタートアップ研究費」や「先端領域融合による開放型医学研究拠点形成」など若手研究者の自立促進を積極的かつ戦略的に推進している。さらに、「計算材料研究者養成ユニット」や「ナノメディシン融合教育ユニット」などによる若手人材の育成・教育なども進めている。

人材システムの概要：既に多くの部局で、教員の採用にあたり任期制を導入しており、学内外への円滑な昇任を促す体制を構築しつつある。年俸制の導入など新たな給与体系に関しては未だ実施するに至っていないが、その導入の可能性を検討している。

人材システム改革構想

提案するシステムの内容とその位置付け：学理の探求と実践を理念とした幅広い先端理工学の開拓研究分野における独創的な若手研究者の育成を実現するために、異分野間の融合研究や新規分野の開拓に挑戦する創造研究のインキュベーションをミッションとする新たな人材育成システムを構築する。このため、「次世代開拓研究インキュベーションセンター(仮称)」を設置し、優秀な若手研究者を国際公募し、特別研究員(「助教」級)として採用する。特別研究員に対して自立的な研究活動を保証するため、適切な研究費の配分を行うとともに、センター直属のアカデミックスタッフを配する研究支援体制を充実させる拠点型育成プログラムとする。自然科学分野の研究においては多様な研究リソースが必要となるため、京都大学の持つ大型・特殊研究設備や国内外の研究拠点など既存の研究基盤を積極的に開放し、若手研究者の自立を強力に支援する。

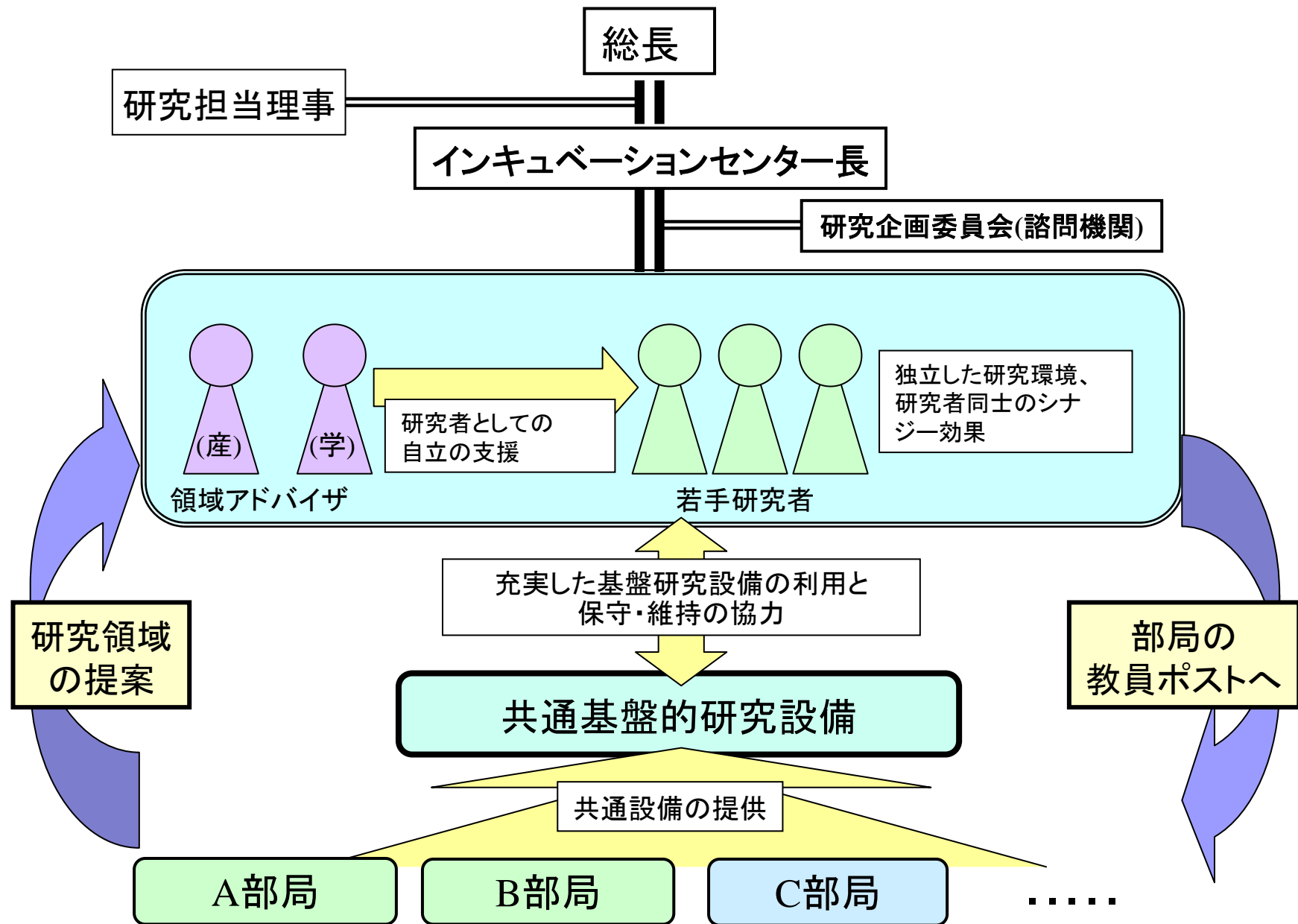
目指すべき人材システム改革の要点：本構想においては、採用された特別研究員は、高い独立性をもってハイレベルの研究を遂行することが可能であり、比較的若い段階から国内外に自己の研究成果をアピールできる。また、広い視野と優れた国際感覚に加え国際的な情報発信力に富む若手研究者の育成を目的として、フレキシブルな海外交流などを実行する。本育成プログラム終了後に優れた研究者と認められた者にはテニユア資格を与え、部局における研究領域の活性化や独創的な研究者による革新的な学術領域の開拓を目指す。

将来的な構想：事業終了後も「次世代開拓研究インキュベーションセンター」における若手研究者育成システムをひな型(理想モデル)として、各部局においてさらに拡充するとともに、全学(理工学以外の分野)への普及をはかる。

人材システム改革における達成目標 (ミッションステートメント)

3年目終了時に、ピアレビューによる研究評価を行い優秀者への支援強化を実施するとともに、若手育成のための任期制実施に伴う適正な評価システムのあり方を検討し、テニユア(テニユア・トラック)制に関する基本的な考え方と方針を策定する。本プログラム終了時(5年目)に研究実績など明確な基準による最終評価を行い、テニユア資格を付与する。また、融合分野や未踏分野における若手育成を積極的に進めるための体制を確立し、人材の流動化や活性化などの仕組みを作り、本システムを一級の研究者育成の理想モデルとして確立する。

新領域を開拓する独創的人材の飛躍システム(実施体制)



新領域を開拓する独創的人材の飛躍システム(実施内容)

